

三井の災害責任は消えず

誠意ある和解条件を

三川鉱山災害から二十三年を迎えた十一月九日、午後一時三十分から大牟田労働福祉会館で抗議集会を開きました。この集会には炭労をはじめ福岡・熊本県評、各労働組合、政党、民主団体、友誼団体の代表、組合員、主婦会員などが参加、ドキュメントスライド「たたかひの炎燃やして」を上映のあと抗議集会に移り、集会終了後三池鉱業所までデモ行進しました。

11.9三池大災害 23周年抗議集会

裁判提訴から十三年を経て、十入ってからおよそ二年。遺族と〇九〇裁判闘争が和解交渉に

〇患者の恒久的な援護措置などに ついて、被告会社側の誠意ある和解条件の提示が求められています。第八次石炭政策の答申が出ていないことを理由にした回答引き延ばしという現状の中で、会社の災害責任を追究する抗議集会となりました。

参加団体のご紹介

福岡県評。熊本県評。大牟田地評。荒尾市評。日本社会党。日本共産党。〇〇守る会。三池難対協。三池退職者の会。三池じん肺会。福岡県評主婦の会。熊本県評主婦の会。日本婦人会議。新日本婦人

激電のご紹介

衆議院副議長多賀谷真徳。衆議院議員細谷治嘉。日本社会党福岡県本部。日本社会党大牟田総支部。日本共産党大牟田市議員、笠原、した

ご芳志のご紹介

日本炭鉱労働組合。平ノ山病院。曙病院。日本社会党荒尾総支部。齊藤清子。荒尾地評。福岡県評。労金労組大牟田支部。社青同全国協九州地方本部。三池じん肺会。

を祈って黙とうを捧げました。続いて参加団体の紹介(別項)、激電の紹介(別項)がおこなわれたあと、原告団を代表して久保〇〇患者家族の会長が決意を表明しました。(三面に全文)

このあと主催者を代表して中原組合長と平川主婦会会長がお礼と決意を述べ、「がんばろう」を合唱、「三井の災害責任は消えない、誠意ある和解条件を」石炭守る第八次石炭政策を」と、組合長の首領で「頑張り」を三唱して閉会、集会を終えた参加者は三池鉱業所までデモ行進しました。

「あいつをいじった来賓のみなさんの発言は、紙面の都合で収まらなくなりました。ご了承下さい。」

四面「七つの子」の「たえ」

富土山、コタツ、カーテンのよう、落ち葉、スチーブ、カレンダー、鉛筆けずり



第8次石炭政策答申原案提示を目前に控えて開かれた抗議集会

あほのだら

芝岡友街



国内炭総撤退の「答申」許さない

重大段階迎えた石炭政策闘争についてのお訴え

半減する国内炭生産量

昨年九月に諮問された第八次石炭政策(昭和六十二年十一月)の答申が、いよいよ出されようとしています。十一月に石炭審議会(石炭政策審議会)の政策部会が開かれて答申が示され、十一月の石炭政策部会が最終答申となる見込みです。その内容は

総撤退めざす石炭政策

この政策では「炭鉱の急激な閉山による地域社会・経済への影響を考慮して、なだらかに閉山することとしていますが、五年後の最終年度では九百数十万トンとし、「六十七年度以降については見通しがつかない」ともいわれています。

残った炭鉱も危機に

長崎の三笠炭鉱は、すでに第七次政策施行中、しかも答申も出されぬうちに閉山提案をおこない、わずか一月で閉山しようとしています。

	60年度	61年度	66年度
原料炭	315	170	0
鉄コーク	44	23	0
電力	1019	1000	850
一般炭	193	100	50
合計	1778	1461	970

炭鉱名	所在地	生産量	うち原料炭
三井	別府	98	42
井原	井原	100	22
井原	井原	94	15
井原	井原	124	57
井原	井原	83	48
井原	井原	70	195
井原	井原	249	131
井原	井原	910	34
井原	井原	153	48
井原	井原	564	213
井原	井原	1574	408

答申の撤回をめざして

このような政策が実施されれば、炭鉱労働者の雇用と生活だけでなく、地域住民の生活が根底から揺らぎます。

一九八六年十一月十三日

三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町一〇一
TEL(〇九四四)三〇三三三